

ゼミナール紹介

担当者名	飯野 守
e-mail アドレス	iiiiinox@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3306
在室曜日・時限	火曜日午前、木曜日午前（訪ねてくる場合は、メールで事前に連絡をください）
個別説明会 （日時・場所）	別紙参照
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	別紙参照
ゼミナールに 関連する科目	情報社会と法、現代社会と著作権、知的財産法
2017 年度担当科目	上記科目に加えて、日本国憲法ほか
授業概要	<p>ゼミナール A は情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>なお、本ゼミナールではメディア/コミュニケーションと法に関わる課題を扱います。とはいうものの、入り口は何でも構いません。例えば、AI や SNS、あるいは、映像のネット配信など、今関心があることを法的な課題として捉え、解決の方向を探ることを目標としたいと思います。</p> <p>春学期は基礎知識を確認するための基本的文献の購読、並びに、個人の研究の準備を行います。購読する文献は受講者と相談して決めたいと思います。秋学期は主として各自が決めた研究テーマについて報告をしてもらい、皆で討論をしながらテーマを深めていくこととします。</p> <p>メディア/コミュニケーションと法に関わる様々な課題について、その問題の所在や解決方法の当否等について自分で判断する力を身につけることを全体の目標とします。ニュースで報道されるようなトラブル事例や、身の回りにある素材について法的な視点から分析して説明する力を身に付けることは将来必ず役に立つはずで。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	石野 正彦
e-mail アドレス	ishino@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6219 研究室 (6号館2階)
在室曜日・時限	月曜日 1, 2, 5 限、火曜日 1, 3, 5 限、水曜日 4, 5 限、場所:6219 研究室 ※先生が会議で不在の場合があるので事前にメールして下さい。
個別説明会 (日時・場所)	別紙参照
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	別紙参照
ゼミナールに 関連する科目	情報サービス産業の理解、ソフトウェアの品質、ビジネス情報処理演習、総合演習 A, B ※未来の情報社会に関心があってスマホのアプリが使えれば、IT 専門知識やプログラミング技術の必要性は全くない。
2017 年度担当科目	情報サービス産業の理解、ソフトウェアの品質、キャリア形成基礎、ビジネス情報処理演習、ソフトウェア開発計画、ソフトウェアの構成とテスト、総合演習 A・B、学外実習 A・B
授業概要	<p>ゼミナール A は情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>なお、本ゼミナールは下記から自由にテーマを選択し、学生自身が関心を持つ分野を研究する。また、各人のゼミナールの成果は IT 関連企業の実務者に紹介して、講評を頂く機会も企画する。優秀な研究成果・作品が期待できる場合は、学会やのコンテストにエントリーして受賞を目指す。</p> <p>1. ゼミナールの到達目標とコンセプト</p> <p>①デジタル社会の進化に向けた最新技術を体験し、実学応用能力の獲得を到達目標とする。 ②デジタル社会の未来予想と夢の実現の探求。(注1)実学能力とは社会に出て有効な応用力, 発想力, 閃き ③IoT(Internet of Things) ビジネスモデルの企画 (注2)ビジネスモデルとは儲かるアイデア, しくみづくり</p> <p>2. ゼミナールの主なテーマと活動概要 ⇒下記の候補テーマから選択する。</p> <p>①情報社会で進化するスマホ, ウェアラブルセンサー, IoT, AI(人工知能)アプリ, ゲーム, ロボット, AR・VR・MR・CG, 3D プリンタ, ドローン等を活用した事例研究と体験, 作品制作。 ②IoT, AI, SNS, スマホアプリでビジネスモデルのアイデアの創造。(ベンチャーに挑戦) ③日常生活での ICT 活用～IoT, AI, SNS, LINE, クラウド, アプリ, ウェアラブルの応用提案。 ④ビッグデータの分析で Web マーケティング, 商品トレンド, 気候変動などの予測・発見。 ⑤IoT, AI 活用のビジネスモデルの企画・提案。(例)Facebook による社会コミュニティ提案。</p> <p>3. ゼミナールの授業日、ツールと成績評価</p> <p>①毎週水曜日 2 限に指定した PC 教室で実施する。テーマに応じた機材・ツールを準備する。 ②研究成果と学習態度が優れているか、学期当初計画の目標達成度により成績を評価する。</p> <p>4. 将来のビジネスへの展開とキャリア研究</p> <p>①各成果のビジネス展開。事例研究、キャリア研究、スペシャリスト、バイタリティ研磨。 ②論文作成, プレゼンテーション, リーダシップ能力と資格取得, 潜在能力のブレーク法。</p> <p>本ゼミナールは将来の情報社会の生活で不可欠な情報技術を駆使してアイデアを創造する。様々な体験で先進情報社会へ飛躍できる実学人養成です。先端技術による情報社会を描く！</p> <p>《メッセージ》IT ビジネスの仕事に就いていた経験から、情報社会のニーズにマッチした将来の IT メディア構想について、一緒に考え、体験を通じて目標成果の達成や作品を制作します。日々、スマホの多くのアプリを巧みに活用して「イノベーション的な発想」を発信しよう！</p>

ゼミナール紹介

担当者名	井徳正吾
e-mail アドレス	itoku@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3410 研究室
在室曜日・時限	火曜日 13:00～ 木曜日 13:00～
個別説明会 (日時・場所)	別紙参照
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	別紙参照
ゼミナールに 関連する科目	社会調査、調査集計法 (SPSS が使えることが望ましい)、企画書の作成とプレゼンテーション技法、イラレ OR フォトショップが使えることが望ましい
2017 年度担当科目	コミュニケーション戦略論、マーケティング・コミュニケーション論、キャリア研究 企画書の作成とプレゼンテーション技法
授業概要	<p>少人数による専門性の高い演習形式の授業である。内容は、各教員の専門によって特化したものになる。理論系のゼミナールでは、各自の設定したテーマについて必要なデータを集めて分析し、論文を作成し、口頭発表する能力を身につける。制作系のゼミナールでは、雑誌・ポスター・CG 作品など、各種メディアにおけるコンテンツ制作を行う能力を演習を通じて身につける。</p> <p>なお、本ゼミナールは実戦形式を重んじ、実際の企業から提示された企業課題を、広告や広報・PR や、セールスプロモーション、パッケージデザインなどのマーケティング・コミュニケーションを用いて解決する方法を学ぶ。</p> <p>具体的には、神奈川経済同友会主催の「産学協同チャレンジプログラム」にエントリーすることで、マーケティング・コミュニケーション戦略のプランニングの仕方を習得する。このプログラムは神奈川県内にキャンパスを置く 30 の大学が参画する県内最大の企画コンペ。参加チームは毎年 250 チームに及ぶ。このコンペで企業から提示された課題の中からゼミに最適なテーマを選び、チーム単位で作業に取り組む。作業が完成したら、提案書にまとめ、実際の企業を相手にプレゼンテーションを実行する。</p> <p>一連の作業を通じて、オリエンテーションの理解の仕方～作業フローの立案～マーケティング・リサーチの企画～リサーチの実施～集計・分析～報告書の作成～アイデア出し・企画立案～提案書の作成～プレゼンテーションの実施までを一気通貫で学ぶ。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	佐久間勲
e-mail アドレス	isao@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3313 研究室
在室曜日・時限	原則として、月曜日 2 限、水曜日昼休み、金曜日 2 限と昼休み。ただし会議やその他の業務の都合で不在の場合もしばしばあります。事前にメールでアポイントメントを取ることをお勧めします。
個別説明会 (日時・場所)	別紙参照
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	別紙参照
ゼミナールに 関連する科目	社会心理学概論、調査集計法 A、調査集計法 B
2017 年度担当科目	社会心理学概論、調査集計法 A、調査集計法 B、説得コミュニケーション論など
授業概要	<p>ゼミナール A は情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>本ゼミナールは、社会心理、そこで得られたデータに基づいて主張をするタイプの研究) を実施できる能力を育成することを大きな目標とします。研究テーマとしては情報学部のゼミナールということで主にメディアやコミュニケーションに関するもの、たとえば、「スマホ依存がコミュニケーション能力に及ぼす影響」「SNS 利用が対人関係に及ぼす影響」「インターネットが精神的健康に及ぼす影響」「送る手の専門性が説得コミュニケーションの効果に及ぼす影響」「姿勢やしぐさが印象に及ぼす影響」などを想定していますが、もちろんこれらに限定しません。</p> <p>本ゼミナール内での具体的な活動は以下の 2 つの課題になります。(1)グループ研究：グループである特定のテーマで実証的研究を行い、その成果をレポートにまとめて、プレゼンテーションをします。本年度は「テレビ親近感と社会的属性の関連」、一昨年度は「携帯依存とコミュニケーションスキル」「テレビ親近感と孤独感」をテーマにした質問紙調査を実施しました。(2)研究論文および文献の収集と発表：各自の関心に基づき、そのテーマに関連する論文や文献を収集し、そのうちのいくつかを取り上げて発表してもらい、全員で討論します。発表を通して、社会心理学の研究内容はもちろんのこと、研究方法、研究論文の書き方についても理解を深めます。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	関 哲朗
e-mail アドレス	seki@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3415
在室曜日・時限	水、木、金（その後も居るかもしれません）
個別説明会 （日時・場所）	別紙参照
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	別紙参照
ゼミナールに 関連する科目	情報社会学科の専門科目全般。
2017 年度担当科目	人間愛と情報社会、成功のプランニング、プロジェクトマネジメント、アルゴリズムとデータ構造、情報と産業、情報とシステム、システム開発論、情報技術史基礎演習 A、総合演習 C
授業概要	<p>ゼミナールAは情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。本ゼミナールは、情報システムやソフトウェア開発の成功・不成功の原因の考察と、成功の継続の仕方、不成功の改善方法について調査と研究を進めます。</p> <p><u>始めに、本ゼミナールでは、数学の知識、プログラミング能力を前提としていません。</u></p> <p>シラバスにはいろいろ書いたような気がしますが、実際には</p> <p><u>前提知識の状況や希望などによって、自由にテーマを決め、進め方を考えたいと思います。</u></p> <p>いずれにしても、情報システム開発、ソフトウェア開発の最先端を調査し、まとめ、考察することで、情報社会とそこにある企業、組織から期待される成果を示すことを目標とします。</p> <p>結果として、IT企業が求めるスキル、資格の1位と表現されるプロジェクトマネジメントのスキルを身に付け、社会で活躍する基礎力をつけていきます。</p> <p><u>情報関連企業で将来活躍することを希望する人には、最適な学習環境となると思います。</u></p> <p>ゼミは、グループまたは個人で調査してきたものを発表し、これをもとに議論することで、各自の知識、考える力を育てるように進めていきます。発表を通して、情報社会やプロジェクトマネジメントに関する研究内容はもちろんのこと、各自の研究方法の確立、研究論文の書き方の修得を進めていきます。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	松本修一
e-mail アドレス	shuichi@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	1115 研究室
在室曜日・時限	月曜～金曜
個別説明会 (日時・場所)	別紙参照
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	別紙参照
ゼミナールに 関連する科目	特になし
2017 年度担当科目	社会システムモデリング、経済性の科学、不確実性とリスクのマネジメント、基礎演習 A、総合演習 C
授業概要	<p>ゼミナール A は情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>(なお、本ゼミナールでは、専門の研究論文を交替で読む輪講および各自が教員と相談しテーマを決めて行う研究の 2 つを並行して行うことを予定している。このような学術的な経験を通じ、今後社会に出る際必要とされる、論理的思考能力、プレゼンテーション力など様々な素養を身に付けることが出来る。)</p>

ゼミナール紹介

担当者名	村井 睦
e-mail アドレス	https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/ を確認
研究室	3409
在室曜日・時限	https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/ の office hour を確認
個別説明会 (日時・場所)	別紙参照
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	別紙参照
ゼミナールに 関連する科目	なし
2017 年度担当科目	基礎演習 B、総合演習 C、インタラクティブメディア概論、コミュニケーションデザイン演習、クリエイティブ演習
授業概要	<p>ゼミナール A は情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>なお、本ゼミナールでは、新しい技術を積極的に取り入れ、旧来からの表現の枠にとられない新しい視覚伝達の領域を模索していく。映像・紙・Web などのメディアを横断的に学ぶ事により総合的な表現力や情報発信力を習得する事を目的とする。またグループワークを多く取り入れてコミュニケーション能力を高める事も重要な学習目的となる。</p> <p>* 詳細は下記を参照してください。 https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/</p>

ゼミナール紹介

担当者名	大橋 洸太郎
e-mail アドレス	kotaro0084work@gmail.com
研究室	
在室曜日・時限	
個別説明会 (日時・場所)	2月2日の説明開示に案内します
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	実施しません
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	データ分析に関する科目
2017 年度担当科目	
授業概要	<p>ゼミナール A は情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>本ゼミナールではデータ分析を行うことを主眼に置いています。データをまとめ、その内容の重要なポイントを読み取り、分かりやすく相手に伝える、そのような力が得られるようにしたいと思います。</p> <p>本ゼミナールでは、以下の2つの目的を持っています。</p> <ul style="list-style-type: none">① データサイエンス分野の分析手法の習得② 分析に基づいた商品開発の体験 <p>春学期には、データ分析に広く応用がなされるようになってきたプログラミング言語の使い方や、データハンドリングの手法を身に着けることを最初に行います。その後、習得したプログラミング能力を活かしたデータ分析手法を学び、グループや個人での分析や発表を通じて、エビデンスに基づいたコミュニケーションを行うスキルを磨きます。現在のところ、プログラミング言語としては「R」や「Python」を想定しています。</p> <p>秋学期には、グループ単位となって、調査を通じて収集したデータを基に商品開発を行うプロセスの一例を学びます。まず商品コンセプトのポジショニングを行い、ニッチな視点を見出し、新たなコンセプトを設計します。次にそれらのコンセプトに相応しい商品名を選定し、コンセプトに含まれる要因の効果の大きさを測定します。グループによる商品開発を通じて、チームとして成果を作り上げるための協調性を磨きます。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	吉田 知加
e-mail アドレス	Ychika3@gmail.com
研究室	
在室曜日・時限	
個別説明会 (日時・場所)	2月2日のゼミ説明会時にご案内します。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	実施しません
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	「システム分析」「システム設計」「企業活動と情報システム」
2017 年度担当科目	
授業概要	<p>ゼミナール A は情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>なお、本ゼミナールでは、情報化要求分析、システム分析について、文献よりそのプロセスおよびモデル・方法論を研究し、討議する。</p> <p>また、各自が希望する特定分野（業種・業態、技術等）について教員とテーマを決め、その分野の以下のプロセスを個人プロジェクトとして遂行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 課題（問題）分析 ② 要求（ニーズ）分析または開発 ③ 情報化ソリューション提案 <p>ゼミを通じて問題解決能力と提案力、及びプレゼンテーション力を培う事を狙う。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	西川 和
e-mail アドレス	nishikaw@keio.jp
研究室	
在室曜日・時限	
個別説明会 (日時・場所)	2月2日のゼミ説明会時に案内します
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	実施しません
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	司書課程科目
2017年度担当科目	
授業概要	<p>ゼミナールAは情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>本ゼミナールでは図書館情報学を主な対象とする。図書館という言葉から本を読む場所、本好きの人がいる場所だと考えるかもしれないが、実際には図書館は紙媒体に限らない幅広い情報を集積し、提供する役割を担う機関である。この授業で扱える内容は図書館でなされているサービス(レファレンス、児童サービス、高齢者サービス、アウトリーチ、選書、棚づくりなど)、提供されている資料や情報(現在・過去の書物、電子資料、ビジネス支援、医療情報など)、図書館システムと幅広いが、履修者の興味に応じて対応していく予定である。</p> <p>春学期では全員で国内外の図書館の事例報告や、図書館情報学の基礎的な文献を読み、議論することを通じて最新の図書館の実践や理論を把握する。秋学期の前半は各自が読んだ文献についてまとめて発表する。後半は各自が図書館の館内外のサービスを実際に見学した結果や、図書館関係のイベントに参加した結果を報告し、全員で議論していく。</p> <p>ゼミナールを通じて図書館の現状と課題を理解するとともに、これからの図書館がどのようにあるべきかを議論しあえることを期待している。</p>